

平成20年度(2008年度)金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	刑 法
------	-----

問題1と問題2の解答は、別々の答案用紙に記入すること。

問題1

Xは、火災保険金を得る目的で、倉庫が密集する紳士服団地の一角にあるX所有の倉庫(スレート葺。鉄筋造り。壁・屋根はコンクリート。可燃部分は窓枠(木製)のみ)を全焼させようと企てた。

そこで、Xは、深夜、倉庫に誰も居ないのを見計らい、同倉庫内の洋服地の上に新聞紙を丸めて置き、これにマッチで点火した。

その結果、洋服地は全焼したものの、それ以外はコンクリート壁が剥落したのにとどまり、窓枠は焼けるのを免れた。

結局、Xは、保険金請求手続を行う前に逮捕されたため、保険金は手に入らなかった。

Xの罪責を論じなさい。

問題2

は、漁港において、多額の生命保険をかけたA女に対し、乗車した車ごと海に飛び込んで自殺することを命じ、Aをして、自殺を決意させるには至らなかったものの、Xの命令に従って車ごと海に飛び込んだ後に車から脱出してXの前から姿を消す以外に助かる方法はないとの心境に至らせて、車ごと海に飛び込む決意をさせた。その際、Aは、普通乗用車の窓ガラスを開けておくことはできたので、水没する車から脱出して死亡を免れた。

Xの罪責を論じなさい。